

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2015年2月16日～2015年2月22日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年2月25日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

##### ▼露大統領補佐官がアブハジアを訪問(16日)

・スルコフ露大統領補佐官がアブハジアを訪問。ハジンバ「アブハジア共和国大統領」との会談後、ロシアは困難な状況にあるアブハジアへの支援を削減することはないとして、「当初、2015年のアブハジア開発プログラムに40億ルーブル強を供与する予定であったが、『同盟と戦略的パートナーシップに関する条約』が結ばれて以降、その額は50億ルーブル増額された」と述べた。また、「条約」に定められている通り、ロシアとアブハジアの「国境」は廃止されねばならないと発言。

#### 【南オセチア】

##### ▼ロシアとの「国境協定」とラヴロフ露外相の発言(18日)

・モスクワを訪問したサナコエフ「南オセチア共和国外相」とラヴロフ露外相が「国境に関する協定」に署名。  
・17日、露外務省は、「国境に関する協定」への署名により、(ロシア連邦への)「南オセチアの併合が進められているというグルジア側が広めている言いがかりが払拭されると望んでいる」との声明を発表。  
・グルジア外務省は、「ロシア連邦は署名を計画している『同盟と統合に関する条約』によるグルジアの領土の事実上の併合を隠蔽しようと徒に試みている」「ツヒンヴァリ地域とのいかなる『協定』も国際法の明白な違反であり、法的効力を持たない」として「協定」を非難する声明を発表。  
・18日、サナコエフ「外相」との共同会見で、ラヴロフ露外相は、グルジアがNATOに取り込まれつつあり、ロシアはそのプロセスを防ぐ措置を講ずると述べた。  
・ラヴロフ露外相の発言について、グルジア外務省は再び声明を発表。声明は、「EU・NATO加盟はグルジア国民の揺るがぬ意思と自由な選択に基づくグルジア外交の優先課題である」「グルジアのNATO加盟のプロセスに第三国が影響を及ぼすことはできない」と述べている。  
・19日、ラヴロフ露外相の発言に関し、アバシゼ対露関係首相特別代表は、「グルジア・NATOの協力はグルジアにおけるNATOの軍事インフラの設置を目的としたものではない」と発言。野党は「ア」特別代表の発言を非難。  
・ジャネリゼ国防相は、「NATOの軍事基地のグルジアへの設置は予定されていない。計画されている訓練・評価センターは軍事目的を持つ軍事基地ではない」と

コメント。

### 2. 外 政

##### ▼野党議員がウクライナの次長検事に任命される(16日)

・ショキン・ウクライナ検事総長はグルジアのサクヴァレリゼ国会議員(野党統一国民運動)を第一次長検事に任命した。「サ」氏はウクライナの次長検事としてEU統合および改革に関連する諸問題を担当する。

・「サ」氏は2009年から2010年までトビリシ市の検事長を、2010年から2012年までグルジアの次長検事を務めた。

##### ▼グルジア国会代表団がアルメニアを訪問(16日-17日)

・ウスパシヴィリ国会議長を団長とする国会代表団がアルメニアを訪問。アルメニアのサルグシヤン大統領、サハキヤン国会議長、アブラハミヤン首相、ナルバンジャン外相と会談。

・「サ」アルメニア大統領は両国間のハイレベルの訪問が頻繁に行われていることを評価。アルメニアにとってグルジアは友好国で重要な経済パートナーであり、二国間のみならず、地域的な文脈でもグルジアとの協力を図っていくと述べた。

・「ウ」国会議長は、「サ」国会議長との会談後の記者会見で、たとえ外交方針が異なっても、両国は密接に協力し、この違いによって互いに利益をもたらさねばならないと述べた。

##### ▼アバシゼ対露関係特別代表とカラーシン露外務次官との会談の計画(17日)

・露外務省は「カ」露外務次官と「ア」特別代表が電話会談を行ない、2月末にプラハで会談することで合意したと発表。

・17日、「ア」特別代表は会見で、2011年11月にスイスの仲介によってグルジアとロシアの間で結ばれた合意が主な議題となると述べた。合意によれば、中立的な企業がアブハジアおよび南オセチアとロシアとの間の物流を監視するシステムが構築されることと引き換えに、グルジアはロシアのWTO加盟を認めるとされていた。

##### ▼ヌーランド国務次官補がグルジアを訪問(17日)

・「ヌ」国務次官補がホワイトハウスおよび米国防省の高官らとともにグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバンヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相、野党統一国民運動および自由民主主義者党代表者らと会談。  
・「ヌ」国務次官補は記者に対し、グルジアの主権・領土一体性、民主主義、EU・NATO加盟の追求に対する米国

の揺るがぬ支持を示すために来た」と述べた。

・サーカシヴィリ前大統領に関して質問された「又」国務次官補は、「ウクライナとグルジアは互いを必要としており、両国の歴史にとって重要なこの時に助け合わねばならない」と返答。

#### ▼トンガ王国との外交関係樹立(18日)

・グルジアとトンガ王国が外交・領事関係を樹立。ニューヨークのグルジア国連常駐代表部にて、両国の国連常駐代表が議定書に署名した。議定書によれば、両国の関係は友好関係、国家主権、主権平等、領土一体性および国境不可侵の原則に基づくものとなる。

#### ▼アゼルバイジャン外相のグルジア訪問(19日-20日)

・メメディアロフ・アゼルバイジャン外相がグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相らと会談。

・「ベ」外相との会談では、政治、貿易、経済、文化の分野におけるグルジアとアゼルバイジャンの戦略的パートナーシップの更なる発展の見通しについて議論。天然ガス南回廊プロジェクトやバク＝トビリシ＝カルス鉄道プロジェクトの重要性を強調。

#### ▼大統領がキエフで行なわれた「尊厳の行進」に参加(22日)

・ヤヌコヴィチ・ウクライナ前大統領の追放から1周年を記念してキエフで行なわれた「尊厳の行進」にマルグヴェラシヴィリ大統領が参加。

・「マ」大統領はポロシェンコ・ウクライナ大統領と会談。ウクライナ情勢および地域の安全保障状況について議論し、関連する両国の経験の並行性にも言及した。「ポ」ウクライナ大統領は、ウクライナ東部の情勢を「マ」大統領に説明し、グルジアの被占領地域の状況に関心を示した。「マ」グルジア大統領は「ポ」ウクライナ大統領をグルジアに招待。「ポ」ウクライナ大統領は、条件が整い次第必ずグルジアを訪問したいと述べた。

・「マ」大統領はストラウユマ・ラトビア首相とも会談。

### 3. 内政

#### ▼大統領が最高裁判所長官の候補者を発表(17日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領はニコ・グヴェネタゼ元最高裁判事を国会に提出する最高裁長官の候補者として発表した。

・「グ」氏は1998年から1999年までグルジア青年法律家協会の代表を務め、1999年に最高裁判事に就任。2005年に他の2人の最高裁判事とともに、検察およびクブラシヴィリ最高裁長官から辞任するよう強要されたとして、裁判官に対する政府からの圧力について告発し、司法規律委員会により解任された。

#### ▼検察の声明(17日)

・検察は、グルジア検察の要請にも拘らず、ウクライナ

検察はサーカシヴィリ前大統領およびアデイシヴィリ元法相の送還を拒否しているとの声明を発表。

・国際手配されている「ア」元法相は、ウクライナで公的な地位に就いていないものの、ウクライナに滞在し、ウクライナ政府に非公式に助言を与えているとされる。

#### ▼トビリシ市裁がウグラヴァ前トビリシ市長の保釈請求を棄却(18日)

・2014年7月から資金洗浄など3件の容疑で審理前勾留下にある「ウ」前トビリシ市長の弁護団が保釈金2万ラリでの保釈を請求したが、トビリシ市裁は請求を棄却。

#### ▼憲法改正委員会の活動期間が延長される(19日)

・国会は憲法改正委員会の活動期間の6か月の延長を全会一致で承認。憲法改正案の提出の期限は2015年3月1日から9月15日に延期された。憲法改正委員会委員長を務めるウスパンヴィリ国会議長は、憲法改正についての意見の一致を得るには様々な理由により時間がかかるとコメント。憲法改正委員会は2013年12月に設置された。

#### ▼国会副議長の交代(19日)

・ズラブ・アバシゼ議員(自由民主主義者党)に代わってグバズ・サニキゼ議員(国民フォーラム)が副議長に就任。

・現在、5名の副議長の構成は、与党連合3名、統一国民運動1名、独立派(元与党連合議員)1名。

#### ▼アチャラ自治共和国議会の動き(20日)

・アチャラ自治共和国議会は定員21名。2012年10月の選挙では与党連合が13議席、統一国民運動が8議席を獲得した。2014年11月に自由民主主義者党が与党連合を離脱したため与党連合は2議席を失った。2015年2月初めに更にヴァサゼ人権委員会委員長が与党連合を離脱したため、与党連合は過半数を割っていた。

・20日、統一国民運動の議員8名が提出したバツィカゼ副議長およびチティシヴィリ金融・経済問題委員会委員長(ともに与党連合)の解任動議が採決にかけられ、ヴァサゼ議員に加え、与党連合からも2名が賛成。解任動議は11名の賛成をもって可決された。

・ベリゼ議長は状況を「一種の政治危機である」と評し、次は自分が統一国民運動の標的になるだろうと発言。

・21日、ガリバシヴィリ首相は、造反者には厳しい措置が与えられると述べた。

#### ▼イメレティ地方知事が辞任(22日)

・メパシヴィリ知事は過去6か月の間にガリバシヴィリ首相に何度も辞任の意向を述べてきたとしつつ、辞任を発表。理由については明かさなかった。

### 4. 経済

#### ▼2015年1月の国際送金額(16日)

・国立銀行の資料によれば、2015年1月の外国からの送金額は74.5百万ドル(前月比35%減、前年同月比23.3%減)。国別ではロシア25.9百万ドル(前月比44.9%減、前

年同月比44.5%減)、ギリシャ 12.2 百万ドル(前月比32.2%減、前年同月比 17.6%減)、イタリア 8.5 百万ドル、米国 6.5 百万ドル、トルコ 4.8 百万ドル、ウクライナ 2.0 百万ドル、イスラエル1.9 百万ドル。

・2015年1月のグルジアから国外への送金額は12.5 百万ドル(前年同月比 4.2%増)。国別ではロシア 5.09 百万ドル(同 25.1%増)、ウクライナ 1.59 百万ドル(同 13.6%増)、ギリシャ 1.35 百万ドル(同 4.6%減)、アゼルバイジャン 0.59 百万ドル、トルコ 0.4 百万ドル。

#### ▼2015年1月の工業製品生産者物価指数(16日)

・国家統計局が発表。前月比 0.8%上昇、前年同月比 4.8 %上昇。

#### ▼ラリの為替レートの下落

・19日にグルジア国立銀行は2月11日に次いで今年2

度目となる為替相場への介入を実施し、4千万米ドルを売却したが、ラリの為替レートの下落は止まらず、2月21日には2003年12月以来の水準となる1米ドル=2.1771ラリをつけた。

#### ▼2015年の政府の経済成長予測の引き下げの可能性(21日)

・21日、ガリバシヴィリ首相は、通貨ラリの減価および地域における「非常に困難な状況」を受けて、政府は行政支出の削減および現在の5%の経済成長予測の引き下げを検討していると発言。

・22日、クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣はTVインタビューで、2015年のグルジア経済の成長率は当初の予測5%には届かないとして、「実際の経済成長は2~2.5%程度になるだろう」と述べた。